

令和7年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立弘道第一小学校 校長 鈴木 秀明

1 学校教育目標

心身ともに健康で、思考力・判断力・行動力があり、自立し共生しようとする心情あふれた児童を育成するため、人権尊重の精神に基づき次の教育目標を設定する。

私たちは、いつでも自分で考え、最後までやりぬきます。
そして、思いやりの心もち、世界中の人と仲よくできる人になります。
○やさしい子 ○考える子 ○元気な子

2 現状の学校図書館の課題

- ①学校図書館が隣り合って2つに分かれている。利用方法によっては、教室を移動する必要があるが生じている。
- ②読書に親しむ児童が多いが、貸出冊数を見ると、個人で差が大きい。また、特に高学年では、貸出冊数が少ない。（令和6年度児童一人当たりの貸し出し冊数実績（単位：冊／一人） 1年：29.5、2年：44.3、3年：39.3、4年：31.3、5年：12.6、6年：4.4）
- ③読書活動の場として使用していることが多く、他教科の学習での利用をさらに促進していく必要がある。

3 今年度の学校図書館の重点目標

- ①読書活動の更なる推進を図る。児童一人当たり年間24冊（月2冊）以上の読書、並びに児童一人当たりの貸し出し冊数を年間20冊以上とする。
- ②調べ学習等、各教科学習での利用を広める。

4 今年度の重点取組

- ①年2回の読書旬間において、図書委員会児童の活動を主体的に行わせ、読書活動を推進する。
- ②学校図書館支援員と連携し、調べ学習の方法や、日本十進分類法に基づいた図書の見つけ方の指導をし、児童がより調べ学習を効率的かつ意欲的に行えるようにする。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①としょかんへ いこう・本を読もう・はたらくじどう車 ②本で調べてしょうかいしよう・おもちゃのせつめい書を書こう ③しりょうを集めて活用しよう・おすすめ図書カードを作ろう・ことわざ、慣用句 ④分類をもとに本を見付けよう・読書発表会をしよう・不思議ずかんを作ろう ⑤NDCについて知ろう・情報ノートを作ろう・図書すいせんかいをしよう ⑥ぼくの世界、君の世界・書評を書いて話し合おう
社会	④都道府県を調べよう・ごみのゆくえ ⑤さまざまな土地の暮らし・米作りの盛んな地域・くらしや産業をささえる工業生産・情報を作り、伝える・自然災害から人々を守る ⑥日本国憲法と政治のしくみ・世界がかかえる問題と日本の役割
算数	⑥データの調べ方
理科	④月や星の見え方 ⑤台風と天気の変化・人のたんじょう ⑥生き物どうしのかかわり・月と太陽の形・地球に生きる
体育	③体のせいけつとけんこう ⑥病気の予防
家庭	⑤物を生かして住みやすく ⑥まかせてね、今日の食事

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）	
総合	③この町大好き ④ユニバーサルデザイン ⑤環境について考えよう ⑥われら地球人
実践の評価	

6 図書館運営計画
（１）日常的な取り組み
①朝読書（毎週水曜日の朝）②図書ボランティアによる読み語り（１～４年、月１回）③本の貸し出し（中休み・昼休み）
（２）主な行事の取り組み
①読書旬間（年２回、図書委員や教員による読み語り）②味見読書（５・６年）
（３）図書委員会などの取り組み
①本の貸し出し ②読書旬間ポスター作り・しおり作り ③おすすめの本POP作り ④環境整備
（４）環境整備の取り組み
①請求記号を３桁に統一し、分類の理解を深める。昨年度、色分けをした表示を作成した。 ②「調べる学習コンクール」の作品を一定期間展示する。
（５）司書・外部との連携
①低学年を対象に、足立区立やよい図書館の「学校出張おはなし会」を依頼する。 ②図書館ボランティアの方と連携し、季節や行事にあった掲示物を作成・掲示する。
実践の評価

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	読書活動の更なる推進を図る。	児童一人当たり年間２４冊（月２冊）以上の読書、並びに児童一人当たりの貸し出し冊数を年間２０冊以上とする。	
②	自ら設定した課題を解決するための方法の一つとして、図書を含めた様々な方法を活用して学習させる。	ICT と図書を併用した調べ学習を実施した回数を各学級５回以上	
③	年間の学習指導内容に合わせ、図書館を活用した学習を展開する。	授業で図書や資料を活用した教員の割合：８０％	

8 学校図書館全体に関する自己評価